

学校概要

創立 46 周年	学校長 関 恭雄	副校長 飯塚 哲聡	学期 2 学期制	児童・生徒数 335 人
学級数 一般級: 9 個別支援級: 2		主な関係校: 上菅田小・笹山小・新井小中・桜坂分校・上菅田特別支援		

学校教育目標

1 学びを深め、実践力を養う	【知】
2 互いを認め、自分を伸ばす	【徳】
3 豊かな心と、健康な体をつくる	【体】
4 地域の一員、国際社会の一員を自覚し、行動する	【公・開】

学校の特徴

- 緑地や山野も多く存在し、自然環境に恵まれた閑静な地域。
- 屋上からは360° 展望でき、西に富士山、東にMM地区、北には東京副都心やスカイツリーも見渡せる。
- 連合町内会長、各自治会会長をはじめとする地域の方々には学校に協力的で、地域の教育力を高める努力をしている。
- 地域との関わりを重視した「上菅田ヨサコイソーラン」が有志の生徒たちによって受け継がれ良い伝統となっている。
- 学校支援体制づくりを人的支援を中心に構築したい。(学校・地域コーディネーター)
- 地域防災での連携を更に推し進めたい。(複雑な学区と町内会の線引き)

学校経営中期取組目標

- 授業力の向上を常に図り、家庭学習(自発的学習)の充実を実現し、学びの連続性を持たせた学力の向上につなげます  
～主体的・能動的な学習への取り組みができる生徒を授業で育成します
- 教育相談などの個別指導の支援を充実させ、組織的に個に寄り添える指導を実践し、生徒個々の夢の実現につなげます  
～特別支援教育をはじめとした個々への支援が確実にいけるよう、情報の共有と活用を推進します
- 外部人材の発掘と活用及び連携を図り、地域とともに子供を育てるセンター的役割を果たします  
～教職員以外、地域の教育資源・人材を最大限活用した学校経営を推し進めます

小中一貫教育の取組

上菅田・新井中	ブロック	: 上菅田中学校・新井中学校・上菅田小学校・笹山小学校・新井小学校
9年間で育てる子ども像	自ら学び、自らの課題に向かい、主体的に行動することも	
自校の具体的取組	☆自分の考えを、相手が納得できるよう説明できる表現力を身に付けさせます ☆確かな思考力と判断力を発揮できるように必要な学力を授業で身に付けさせます ☆更に、規範意識の醸成が図られるような学校行事や教育活動を充実させます	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	学ぶ喜びを感じられる授業づくりを進める。基礎基本を定着させるとともに、考える力や表現する力を育てる。	①校内研究授業や小中一貫教育推進ブロックの授業研で、積極的に授業公開する。 ②数学・英語でTTの授業を行い、個に応じた指導を充実させる。 ③学校図書館の活用を各教科・領域で具体的に計画し、実施する。 ④学力向上に向けた各教科の取組を情報交換する場を設ける。
豊かな心	礼儀や規律を重んじ、自他の人格を尊重し、豊かな人間関係をつくることのできる生徒を育てる。	①道徳の時間を充実させるとともに、規範意識を高められる集団づくりを行う。 ②悩み相談アンケートや生徒会のあいさつ運動を実施し、自己有用感・自己肯定感が持てる学級・学年・学校づくりを目指す。 ③合唱練習の取組を通じ、創造性や表現力を養い、豊かな感性や情操の醸成につなげる。
健やかな体	心と体を一体としてとらえ、運動に親しむ資質や能力を育てる。また、食に関心をもち、健やかな心身を育む。	①新体力テストの結果を基に、体力向上に向けて生徒自ら目標を定め実践させる。 ②食に関する専門家と連携し、食について学ぶ取組を充実させる。
特別支援教育	個々の状況やニーズに応じた支援・指導を推進する。	①学習支援・進路適性診断・QUテスト等を活用する。 ②個別の教育支援・指導計画の充実を図る。 ③委員会での取りまとめ、職員間での共有、申し送りを徹底する。 ④特別支援計画に基づき、各指導部とも連携し目標達成を図る。
生徒指導	いじめや不登校の未然防止に向け、生徒が望ましい人間関係を構築できるよう支援する。特にいじめの発見に向け全教職員が生徒を見守れる環境づくりを推進する。	①Y-Pアセスメントの活用 ②教育相談の実施 ③学習相談の実施 ④アンケートの実施
教育環境整備	校内学習環境を見直し生徒が目的に応じて活用しやすくする。さらに、情報機器を活用し様々な情報の共有を更に進める。	①職員室の情報機器を活用し、情報の共有化を図る。 ②空き教室を、キャリア学習室など多目的に活用できる環境整備を進める。
地域連携	地域と連携して生徒の健全育成のためのお力を借りたり、生徒の地域活動への参加の向上を図る。	①地域で生徒の健全育成に関わる方々との連携を図る。(地域コーディネータとの連携) ②地域活動への参加と地域清掃などの奉仕活動の推進。 ③学校・家庭・地域連携事業実行委員会の開催による地域との情報の共有化の見直し。
人材育成・組織運営	学習指導・生徒指導・学級経営の実践力を高める。校務の効率化を図るとともに、組織運営の活性化に努める。	①メンターチームを組織し、経験の浅い教員の育成を図る。 ②外部指導者を活用し、校内研究授業・校内研修を充実させる。 ③小中交流を充実させ、生徒の学習習慣の定着や教師の授業力向上を図る。 ④校務の効率化と職員組織の見直しを行う。